

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790400095		
法人名	中嶋レース 株式会社		
事業所名	鶴の恩返しホーム輪島		
所在地	石川県輪島市洪田町テ部16番1		
自己評価作成日	令和5年3月25日	評価結果市町村受理日	令和5年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45番地2 サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和5年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景や日本海に浮かぶ七ツ島を眺めたり識折々の風景が心を和ませてくれます。玄関周りには季節の花をかざり、癒しの空間に努めています。入居者様・ご家族との信頼関係の構築に努め終末期の看取りケアも御家族の希望により今後も地域医療連携をとりながら躊躇せず受け入れている体制です。介護職員の高齢化がありますが出来るかぎり長く働いてもらい、日本人以外で新たな介護分野で外国研修生の雇用(本事業主は介護以外の業態では研修生制度利用済み)ミャンマーより2名従事しています。また特定技能雇用枠でフィリピン国籍1名も雇用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「個々の尊厳」を理念として掲げ、利用者一人ひとりの思いを否定せず、受け止めるようにしている。何気ない日常会話の中で利用者の思い(〇〇したい等)を聞いた場合は、本人の言葉をそのまま日々の記録に残すようにしている。「家に帰りたい」という思いも否定せずに受け止め、家族と電話することで本人が納得出来るように支援している。介護計画は利用者の思いを重視できるように、ライフサポートプランの様式を用いている。目標には本人の思いが込められた言葉(〇〇したい等)をそのまま明示し、日々の実践に繋げている。医療面では協力病院(市総合病院)への受診をホーム側で支援している。受診が難しい場合には、地域の医療機関による訪問診療も活用している。ホームの管理者・看護職員が各主治医と十分に連携を図り、適切な医療が受けられる体制を整えている。又、地域の医療機関(訪問診療)の協力を得ながら、重度化・終末期支援の実践にも取り組んでいる。看取り期はホームで可能な限りの緩和ケアを行い、コロナ禍でも居室で会いたい人(家族・親戚等)に会えるようにサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	〇	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	〇	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	〇	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	〇	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	〇	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	〇	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の尊厳を理念として掲げ、法人の理念との調和をとり職員・管理者兼計画作成者・介護主任兼計画作成者・看護師で、日々入居者様の状態の気づきに努めています。	「個々の尊厳」を理念として掲げている。理念は玄関・事務所内の掲示、カンファレンスでの話し合い等を通じ、職員への意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	依然としてコロナ禍でホーム内にボランティア団体の歓迎はできていない状態で。ホーム内でのレクレーションのみです。	コロナ禍の為、現在、地域との積極的な交流は控えている。平時は文化祭への出展、住民ボランティアの受け入れ等を通じ、地域との交流を図るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する研修会の案内や地域包括支援センターや能登北部医師会等のZOOMでの研修会などが多くなり参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり開催していません。書面での報告もとどこっています。早期に行政担当のみでも開催したい。	コロナ禍の為、運営推進会議の開催を控えている。メンバーへの定期的な書面報告も滞っている為、課題となっている。	運営推進会議のメンバーや家族に、書面での定期的なホームの状況・活動報告が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とメールでのやりとりや勉強会などの案内に参加していますが、認知症の推進員として参加や男女共同参画推進員、輪島病院運営協議会など参加しています。	管理者はメールでの情報交換や様々な会合への出席(ZOOM参加含む)を通じ、市担当者との連携強化を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを職員にいつでも閲覧出来る様にしています。身体拘束にならないか、常に医療連携看護師・看護師・介護主任兼計画作成者と話し合い職員が入居者様に関わるように努めています。	ホームとして身体拘束廃止マニュアルを整備している。毎月のケアカンファレンスの中で、利用者個々の支援方法や身体拘束(フィジカルロック)の有無について確認している。	スピーチロックに関する職員間での話し合いや定期的な研修の実施が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の入浴、トイレ誘導、更衣の際のプライバシーにも十分に配慮し経験の浅い職員には言葉使いにも注意していますが、気がつけば大声で情報交換している状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を利用されておられる方はいません。制度のリーフレットを職員が見れるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項の説明しています。また入居相談を受けられる地域医療連携室や地域包括支援センター・居宅介護事業所にも重要事項を説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にホームでの生活等を、その日の勤務者がお話しています。受診の報告はメールにてお伝えしています。	面会時に利用者の近況を伝え、家族の意見・要望を聴くようにしている。又、ショートメールやLINEを用い、家族と気軽な意見交換が出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	穴水にも事業所を併設して月に2~4度を定期的に、来訪して職員の意見を代表者・副社長にお話しています。	管理者も現場業務に従事しており、普段から職員の声に耳を傾けている。又、毎月のケアカンファレンス時に職員の意見・困っている事等を吸い上げ、ホームの運営改善(利用者のより良い支援方法等)に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を聞きいいホームになるべく努力していますが職員の高齢化、若年層の業務の理解力遅れから育成ができていません。アクト事業協同組合さんからの特定技能での海外からの就労支援を常時要望しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍と職員のぎりぎりの人数での疲労もあり研修の意欲も低下している中管理者が参加した研修資料が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所連絡会において、勉強会や事例検討会に参加できるように心がけてzoomでの研修で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族よりの要請による入居が大半であり、「困ったことはありませんか？」と優しく声掛けし、不安の訴えを真摯に受けとめ、ご家族と連絡を密にし、カンファレンス時や、日々職員間で話し合い本人との関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の面会時やメール・電話等で、ホームでの生活をお話して御家族のご負担をお掛けしない様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自身での訴えのない分、ご家族にご自宅での生活の様子を伺い、支援に繋がれるように職員間で話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛け1つでも、入居者様は敏感に察知されますので、「〇〇の時は、こうでした。」と記録に残し職員間で共有出来る様にしています。退社時も「また明日来るね。」と本人の顔を見て声掛けしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との対応も管理者だけで対応するのではなく、その日の職員もホームでの様子お話しするように努めています。入社の浅い職員には挨拶をしっかりとする様に指導しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	徐々にですがコロナ禍においても玄関ロビーでの面会を増やして短時間ではありますがお越し頂けるようにお伝えしています。地域の文化祭には作品を出しています。	コロナ禍でも家族との繋がりが途切れないよう、感染対策を施しながら玄関先で面会できるように配慮している。又、LINEでのビデオ面会も出来るようになってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同志での会話があまりとられていません。誕生会・カラオケ・ダンスのDVD鑑賞、嚙下体操等で関わりをとる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の方とスーパー等で出会う機会には、「みんな元気ですか？」と声掛けています。他の施設に移られても市内病院の通院時には必ず挨拶しています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望を実現できないまでも聞くことはしています。電話はいつでも掛けれる状態にしています。	何気ない日常会話の中で、利用者の希望・要望を聴くようにしている。利用者の思い(〇〇したい等)を聞いた場合は、本人の言葉をそのまま日々の記録に残すようにしている。「家に帰りたい」という思いも否定せずに受け止め、家族と電話することで本人が納得出来るように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当ホームを終の住みかにとられている方は、以前自宅にて過ごされていた方と連絡を取られこれまでの関係を続けられています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の高齢化がかなり進み、IDL,ADLの低下も著しく看護師や介護主任・職員で申し送り等で、日々の気づきと記録もれのない様に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前回の調査で利用者自身がしたいこと・できる事が主訴となる介護プランの作製にはなっていません。ご家族様も「ここで断られたら行くとなし」といわれるご家族様も居られなかな思うようになりません。	利用者の思いを介護計画に反映できるよう、ライフサポートプランの様式を用いている。本人本位の計画となるよう、目標には本人の思いが込められた言葉(〇〇したい等)をそのまま明示している。計画内容は基本、半年毎に見直している。	介護計画の内容を利用者本人にも分かりやすく説明し、同意を得る取り組みが期待される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(水分摂取量・排便状況・通院状況・入浴状況・面会状況・点眼状況・眠剤服薬状況等々)を一週間見れる様式は続いています。受診の際には2週間分の記録とその月の体重を報告しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の変更により、輪島ホームの独立事業所なりサービスの多様化にはなっていませんが、入居時に他施設も図時申し込みされるようお話しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの協力も少しずつ出来てきましたが、コロナ禍で文化祭の中止、敬老会中止で区費は年間で払っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市立輪島病院が協力医療機関として医療連携機関として報告していますが、それ以外にも伊藤医院・輪島診療所もかかりつけ医としてホームに往診に来て頂いています。12月末にインフルエンザ予防接種済みで、コロナ感染症のワクチンも5回往診にて対応行政に連絡済みです。	協力病院(市総合病院)への受診をホーム側で支援している。受診が難しい場合は、地域の医療機関による訪問診療も活用している。ホームの管理者・看護職員が各主治医と十分に連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師に指示を仰ぎ、個々の入居者様の些細な変化、異常時に対し正確な状況を報告し、適切な指示で行動しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々通院にて施設の顔が想像できるようにふるまっています。輪島ケアネットのメンバーでソーシャルワーカーとの関係もあり当ホームの状況も相談出来る体制です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の入居者様の看取り中で伊藤医院の往診と日々の経過報告、ご家族の訪問など関わりには注意しています。24時間ご家族様の要望に答えるようにしています。	地域の医療機関(訪問診療)の協力を得ながら、重度化・終末期支援の実践に取り組んでいる。利用者の状態変化の都度、管理者・医師・家族で今後の方向性(ホームでの看取り、病院や特養施設への移行等)を検討している。看取り期はホームで可能な限りの緩和ケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを見えるところに配置しています。今後もマニュアルの周知に努め医療連携看護師の指導・説明を受ける。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急マニュアルを見えるところに配置しています。管理者・介護主任・看護師への連絡整備されており緊急時の対応が適格に行われる様努めています。	緊急時対応マニュアルや救急車を呼ぶ手順を整えている。利用者の急変時には、ホームから5分の所に在住している看護職員によるサポート体制(連絡・相談して指示を仰ぐ、応援に駆けつける等)が整えられている。	利用者の生命にかかわる緊急事態の際に、適切・迅速に対応できるよう、計画的・継続的なロールプレイ訓練の実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	重要事項説明書で明記されています。輪島病院に受診も多く、担当の医師とも「鶴恩の人」であるとの認識も深めてきました、また地域医療担当医SW等と交流を深め、伊藤医院・輪島診療所の往診もとりつけています。	協力病院(市の総合病院)や地域の医療機関による支援体制を確保している。又、契約で地域の介護老人福祉施設による支援体制を確保している。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	通常夜勤は1階、2階のユニット毎に配置しています。緊急時は近隣の職員に応援に入ってもらいます。管理者は自宅から30分でホームに入れ輪島病院まで10分以内に入れます。	夜間帯は2ユニット＝ホーム内で計2名の複数体制となっている。又、緊急連絡網による管理者・看護職員への相談体制や近隣在住職員の応援体制を整えている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で実践していませんがコロナ感染がおちつき次第避難訓練実施します。紙オムツ、簡易トイレの準備あり。	防災マニュアルを整備している。又、防火設備一式を整え、業者による定期点検を実施している。過去の実際の災害体験を基に、地震・断水・大雨時等の対応を文書化している。コロナ禍で総合避難訓練を控えていたが、今後、消防立ち会いの下での火災訓練の再開を予定している。ホームとして必要最小限の備蓄品(乾麺、貯水槽、カセットコンロ等)を備えている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアル整備しています。スプリンクラーや自動通報装置に加え、火災通報装置連動停止機能を追加し整備・定期的検査されています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より優しい声掛けに努めています。不快と思える時には、その都度注意しています。ミャンマーの2人やフィリピンの人も職員によく聞いてケアしています。	「個々の尊厳」を理念にも掲げ、優しく丁寧な対応を心がけている。職員に不適切な言動があれば、管理者が都度注意喚起している。又、申し送りは利用者から離れた場所で行う等、プライバシーにも注意を払うようにしている。	トイレ誘導は他者に分からないようにさりげなくお誘いする、申し送りの際は名前を伏せる等、プライバシーに関する職員間での話し合い・振り返りの機会が期待される。
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様へ聞き取りしていますが、寝たきり度、認知症高齢者の日常生活自立度もレベル的に悪化されて希望に添えているとは言い難いのが現状です。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、就寝以外に、漫然と1日過ごす方が多くなりましたが、レクリエーション記録を作成しカラオケやなぞなぞや大人の塗り絵等何らかでも身体を動かす様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族のなかには「ホームで気になったものは購入してください。」と言われ職員がその人に似合いそうなもの購買してきます。日常や通院の際には爪・ひげ・頭髮に気を掛けています。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に調理することではなく、配食サービスの利用しています。食べ残しについては業者さんに調理の工夫等お願いしています。おやつに季節感のあるものの工夫に努めるようにしています。	ご飯と汁物はホームで準備し、おかず類は配食サービスを活用している。業者作成の献立は、季節感にも配慮した内容となっている。利用者一人ひとりの嚥下状態に応じた食事を提供(ムース食も対応可)している。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービス会社に変更になり。管理栄養士の元でメニューが立てられておりますが近來まれに見る物価高等でメニュー等も変わってきて嗜好に沿わないものも多くなっている。嚥下困難の方には、以前よりムース食で対応しています。水分も既往歴に応じ対応しています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下困難な方、認知力低下の方が多くなってこられ、上手く口腔ケアされない方は、うがいや口腔専用ティッシュにて対応しています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一週間単位の排泄チェック表を続けています。排泄リズムを把握し、トイレ誘導の声掛けも、各入居者様あった声掛けになる様に努めています。	日中は「トイレでの排泄」を基本とし、ポータブルトイレも使わないようにしている。誘導が必要な方には個々の排泄パターンを見極め、適宜お誘いの声をかけている。夜間帯は利用者の心身の状況を考慮し、個別対応(夜間のみポータブル使用、安眠を優先して大きいパッド使用等)を図っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嚥下食の方々には特に水分、食事の摂取量の記録の不備のない様に徹底し、看護師による腹部の観察、排便の状態報告と医師からの指導による緩下剤の服薬で、合併症の予防に努めています。運動の重要性も繰り返し入居者様に説明しています。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒まれる方には、声掛けの内容を工夫したりして入浴して頂いています。すべての入居者様が介助を必要とする状況で増やすことが出来ない状況です。	ホーム全体で週に4日お風呂を沸かし、利用者の要望(一番風呂、自分専用の物品使用等)に沿った入浴を支援している。入浴を拒む方には無理強いないせず、声かけを工夫したり、別の日に改めてお誘いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間にレクレーションをし入眠に繋げるように看護師の声かけ・実践に努めています、カラオケ・体操を積極的に行うようにしています。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の内服の効能、服作用については全職員が理解出来ているとは言えませんが、薬情などは、閲覧出来るようになっていきます。随時看護師から説明受けることも出来ます。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	はっきりとした役割分担はありませんが、TVのスイッチのON/OFFや洗濯物たたみ、日めくり、テーブル拭きをお願いしています。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院の為の外出が多く、レクとしての外出は数なく。既往症の関係で体調を崩される方も居られます。入居者様の受診の科目が多く待ち時間に苦慮しています。	コロナ禍の為、外出支援は控えているが、気分転換を兼ね戸外に出る機会(散歩、日向ぼっこ等)を設けている。病院受診ついでのドライブや季節感を味わうドライブ(桜花見等)も支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はホームでの立替えで対応しています。欲しいものは管理者に言ってもらい購入しています。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時に応じ随時対応しています。2人の入居者様は通販の商品の購入を頼んでくる場面もあり、ご家族に連絡し了解の上購入しています。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の周辺に職員が摘み取った季節の草花を飾って居ります。1階フロアの壁と2階フロアに新しいモチーフに入居者様の写真を入れていまず、入居者の方の折紙の作品を飾っています。	一歩ホームの外に出れば自然の風景(田畑、山、海等)が広がっており、季節感を十分に味わうことが出来る。職員が差し入れてくれる季節の花をホーム内に飾っている。冬季には湿度に配慮し、各ユニットに加湿器を設置している。将来の利用者ニーズに備え、Wi-Fi環境も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室のみ、入居者様の中で数人程度、玄関にて外の風景を眺めたりしてゆったりとした時間経過を楽しまれています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にお花を飾られたり、自分で折り紙の作品を飾られたり面会時にご家族と一緒に撮られた写真を飾られたりされています。居室にTV置かれて観ている方も1人。1部の入居者様のご家族は来られる時は衣類の整理されていけます。	入居時に自宅で使い慣れた物(テレビ・布団・趣味道具等)を持ち込んでもらうよう、家族に働きかけている。ホーム入居後に自分で作った作品や家族と一緒に撮った写真を、居室内に飾っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字で理解される入居者様について(トイレ)等の表示があります。食事前には、誤嚥予防する為の嚥下体操をしています。ソファーにて休憩時に座って出来る下肢運動を勧めています。笑顔でされている方もお一人居られます。		